



竹内街道・横大路(大道)～難波から飛鳥へ日本最古の官道～ ガイド付ウォーキングイベント

大阪市天王寺区

コース
マップ

難波京のメインストリート・朱雀大路に沿ってさまざまな史跡を巡り、難波宮の大きさと歴史を感じるコース。

日本遺産認定歴史の道、竹内街道・横大路(大道)とは

推古天皇21(613)年に敷設された竹内街道・横大路(大道)は、外交の玄関口である難波津から堺を経て、政治の中心だった飛鳥・小麿田宮(おはりだのみや)を結ぶわが国最古の官道。総延長約40キロ、幅20メートル以上だったといわれる。難波宮の朱雀大路から南下する難波大道、堺と長尾神社(奈良県葛城市)を東西に結ぶ竹内街道、長尾神社から小西橋(桜井市)を結ぶ横大路の三つの道からなる。古代以来、大陸との外交や聖徳太子信仰、物流の拠点を結ぶ経済など、時代とともに多様な表情を刻んできている。平成29(2017)年に日本遺産に認定された。

主催:竹内街道・横大路～難波から飛鳥へ日本最古の官道「大道」～活性化実行委員会 共催:産経新聞社
(大阪府・大阪市・堺市・松原市・羽曳野市・太子町・奈良県・葛城市・大和高田市・橿原市・桜井市・明日香村)

ガイド:てんのうじ観光ボランティアガイド協議会

文化庁 令和元年度文化芸術振興費補助金
(地域文化財総合活用推進事業)



⑤円珠庵

江戸時代初期の和学者、契沖が晩年に隠棲、古典の研究に親しんだところです。契沖(1640~1702年)は尼崎に生まれ、11歳のとき今里の妙法寺で出家、高野山で修業、各地を流浪しました。代表的著作「万葉代匠記」は水戸光圀の依頼で、万葉集を注釈したものです。ここには契沖の墓もあります。

なお境内には鎌八幡という小社があります。そこの檻に鎌を打ち込めば願いがかなうと伝えがあり、真田幸村(これより北側付近は、大坂の陣真田出丸跡という)もそれにあやかって大勝した伝えがあります。



⑥高津宮跡

仁徳天皇の宮殿「高津宮」については、今なお明らかではないが、1899(明治32)年、仁徳天皇1500年大祭記念で東高津館差町に石碑が建立されました。その後道路拡張工事のため、現在地(府立高津高校内)に移されました。



①法円坂倉庫群

古墳時代中期(5世紀)の16棟以上の高床建物が東西方向に並びます。当時としては最大級の規模で古市や百舌鳥に巨大な古墳を築いた大王が物資を集積した倉庫と考えられます。



②難波宮史跡公園

大化の改新にともなう難波遷都以来約150年間、難波宮は日本の古代史上に大きな役割を果たしました。長年にわたる発掘調査の結果、前期・後期2つの時期の難波宮跡が、中央区法円坂一帯後に広がっていることが明らかになり、現在、内裏・朝堂院などの中枢部が、国の史跡に指定されています。



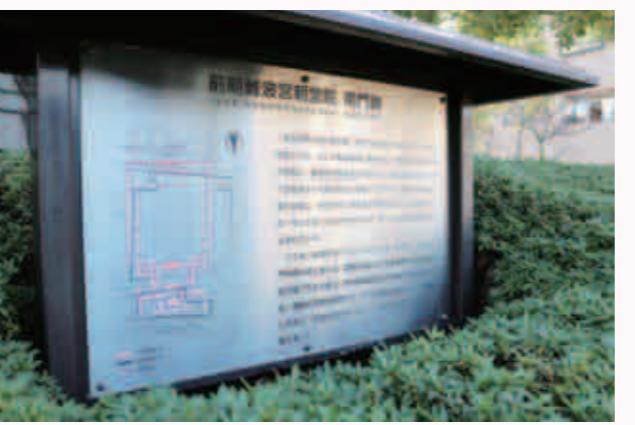
⑦細工谷遺跡

1996(平成8)年の発掘調査によって「百濟尼寺」という古代寺院の存在が確認されました。出土墨書き器・木簡など飛鳥時代から奈良時代(7~8世紀)の資料が出ています。また、和同開珎の枝銭、難波地域における渡来系氏族のあり方、銭貨の鋳造流通などにかかる資料も見つかっています。



⑧上之宮跡碑

上之宮神社は、四天王寺七宮の一つで四天王寺の北東を守る宮です。祭神は欽明天皇(聖徳太子の祖父)で、1907(明治40)年大江神社に合祀されました。熊野十九王子社の一つ「上野王子」跡といわれています。当社の宮司だった生田南水は「当社は上野王子だという説があるが、祭神が欽明天皇なので聖徳太子の館邸ではなかったのか?」と上野王子説を否定しています。



③朝堂院南門跡

朝堂院は、朝堂と大広場の朝堂院からなり、朝堂は、朝廷の上級官僚の執務場で、その前の大広場(朝堂院)は、朝廷の儀式が催される場所です。参内する役人は、朝堂院南にある朝集堂で正装に着替え朝堂院南門前に整列し、ご来光を挙げ、朝堂で執務して正午に退出する慣わしでした。



④玉造稻荷神社分社

玉造稻荷神社分社は、1989(平成元)年、創祀二千年祭を行った。この地は江戸時代に玉造を代表する町人である松屋甚四郎、その手代源助が伊勢参り「浪花講」を設立した場所である。



⑨明月林藏鶯庵

曹洞宗の寺院で本尊は釈迦如来。上之宮神社の仏事を行う社僧の住居「春海庵」が前身。「銀椀に雪を盛り名月に鷺を藏す」が名前の由来。山門は京都・法然院の茅葺を模したもので。



⑩天王寺区役所

天王寺区は、大阪市のほぼ中央に位置し、南北に延びる帯状の上町丘陵と呼ばれる台地にあります。区役所内の区民ギャラリーでは、細工谷遺跡の紹介があり、奈良時代の井戸から出土した土器と和同開珎の枝銭や富本銭のレプリカや上本町遺跡の資料も展示されています。



⑪ 久保神社

四天王寺七宮の一つ。熊野大明神と国分村の稻荷を1907(明治40)年に合祀。祭神は天照大神、速素盞鳴尊、伊邪那岐尊、伊邪那美尊、宇賀御魂神。1945(昭和20)年3月の空襲で鎌倉時代様式の社は焼失しましたが、1952(昭和27)年に再建されました。



12 熊野大神宮跡碑

創建587年頃の元熊野権現社。明治期に改称し、1907(明治40)年、久保神社に合祀。熊野権現社は勅宮の国分村の氏神で、国分寺を神宮寺としました。ここが熊野九十九王子社の一つ「上野王子」との説があります。



⑬ 摂津国分寺跡

741(天平13)年、聖武天皇は、諸国に国分寺造営の詔を出されました。大阪では、天王寺区国分町と北区長柄国分寺の2寺が想定されていますが、この周辺から奈良時代に蓮華文献丸瓦等が多く出土しているので、ここが摂津国分寺跡とみなされています。

⑯ 難波大道・羅城門推定地

日本書紀には「679年難波に羅城を築く」とあります。676年、東アジア情勢の「統一新羅」対策として国防上の危機感から軍事力の強化と律令国家の整備を急いだことを示しているが、痕跡は発掘されていません。難波大道は、難波宮から南へ直進する古代の官道で、堺新金岡付近を結ぶ11kmの道です。地図には、難波宮朱雀大路・難波大道が当時あったと想定される位置を図示しています。

